

大阪府地域医療再生計画「泉州医療圏」

安定した医師確保に向けた病院の機能再編

(南部における公立病院の機能再編)

《課題》

- ・泉州医療圏の医療提供体制は、府内でも相対的に脆弱
- ・総じて南部の医療機能がより脆弱
- ・地域医療の中核を担うべき南部の公立病院の医療提供機能が低下

『医療圏全体の医療水準の向上のためには、南部の医療機能の底上げに重点化が必要』

『とりわけ、南部の公立病院の機能再生への取り組みがキーポイント』

周産期医療体制の拡充

(北部における公立病院の連携強化)

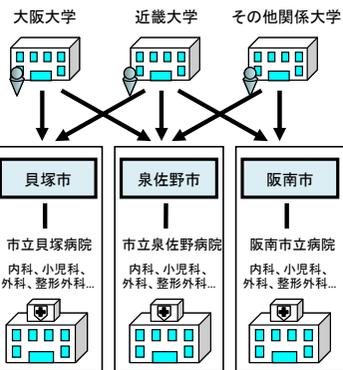
《課題》

- ・ハイリスク分娩の増加傾向が顕著
- ・市立泉佐野病院（地域周産期母子医療センター）のNICU稼働率がほぼ100%

『安定的にハイリスク分娩に対応するため、周産期医療提供体制の充実に向けた取り組みが急務』

『北部に開設された周産期センターの機能強化が必要』

現状



【特長】
 ・それぞれの病院が、がん、救急などの強みを有する
 ・各病院間は交通至便

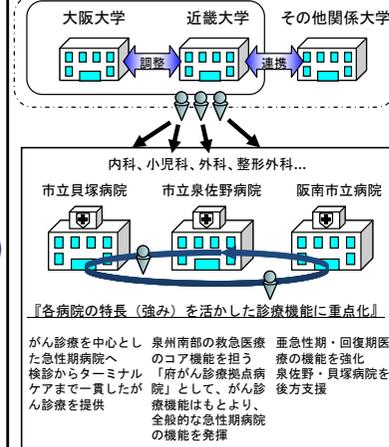
【課題】
 ・各病院が総花的に診療科を標榜しており、配置医師数が少なく、医師の負担大
 ・医師不足により、診療機能・研修機能低下
 一方、機能再編に取り組んだ診療科は医師数増加

・それぞれの病院が複数の大学から診療科ごとに医師の派遣を受けているため、円滑な人材交流が困難

・それぞれの病院組織が独立しているため、医療従事者の柔軟な配置が困難

・地方公共団体の一組織のため、財務面や組織面が硬直化

医療機能再編のイメージ



【各病院の特長(強み)を活かした診療機能に重点化】

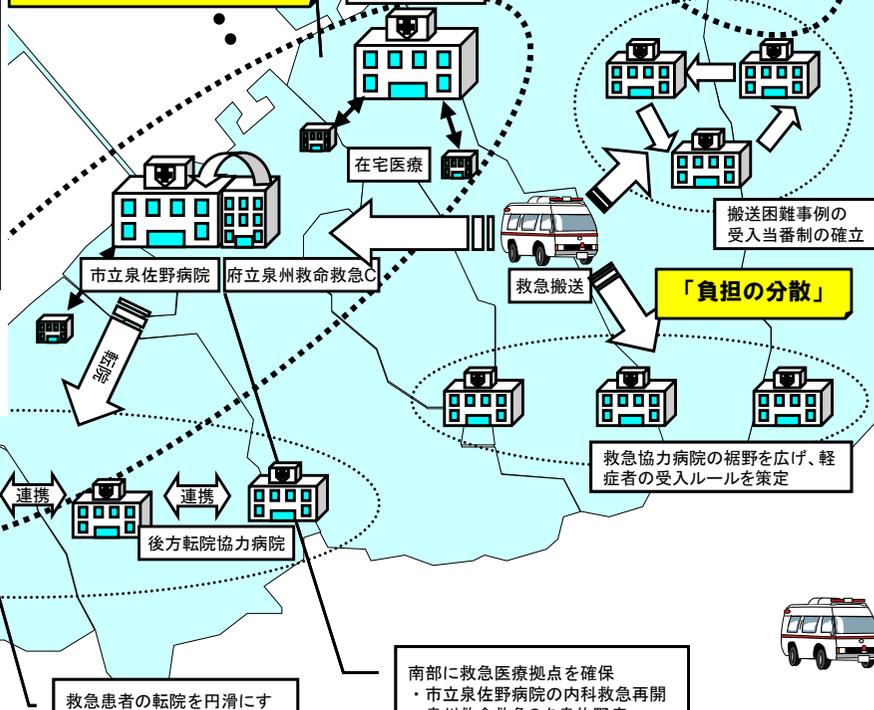
がん診療を中心とし、泉州南部の救急医療のコア機能を担う。急性期・回復期医療の機能を強化。検査からターミナルケアまで一貫したがん診療を提供。

・診療科の集約・再編により、医師の働きやすい(集まりやすい)環境を構築

・関係大学間の協調による効果的・効率的な医師派遣の維持・拡大

【将来的な経営形態のあり方】
 本計画に基づき取り組みを通じて生まれた成果や、顕在化する課題を十分検証しながら、将来的な課題として検討

「点」から「面」で支える地域医療ネットワークへ



救急患者の転院を円滑にするための関係者間の協議の場を立ち上げ、連携を強化

南部に救急医療拠点を確保
 ・市立泉佐野病院の内科救急再開
 ・泉州救命救急Cを泉佐野病院の一部門として運営

救急医療体制の再構築

(医療圏全域における救急医療体制の充実)

《課題》

- ・救急搬送受入における北部の病院への依存が大きい
- ・救急需要と医療供給のバランスが崩れている
- ・搬送困難事例が急増
- 一部に対応可能病院に過剰な負担

『基幹となるべき公立病院における救急医療の機能整備』

『増加する救急搬送への対応、とりわけ軽症患者対応の負担分散』

『搬送困難事例となる重症救急患者の着実な受入体制の確保』

- 【救急医療提供体制の強化】
 ・市立泉佐野病院を中心に地域の救急基幹施設を整備
- 【後方転院の確保】
 ・阪南市立病院の後方転院受入れ機能を強化



【消防と医療の連携による搬送・受入の円滑化】
 ・消防法改正に基づく救急患者の搬送及び受入れについてのルール(実施基準)の策定

【円滑な後方転院調整のしくみづくり】
 ・救命救急センター、二次救急病院等から急性期処置後の救急患者の転院を円滑にするための関係者間の協議の場を立ち上げ、連携を強化

併せて、府全域で効率的な施策を展開、本医療圏の医療再生を側面支援
医師確保策の充実…『奨学金制度を活用した医師確保対策』
 『就業環境改善による女性医師の確保対策』

1 課題を解決する方策

- ① 課題：泉州医療圏の医療提供体制は、府内でも相対的に脆弱
総じて南部の医療機能がより脆弱
地域医療の中核機能を担うべき南部の公立病院（市立貝塚病院・市立泉佐野病院・阪南市立病院）の医療提供機能が低下
⇒医療圏全体の医療水準の向上のためには、南部の医療機能の底上げに重点化した取り組みが必要（南部の公立病院の機能再生がキポイント）
- 目標：南部の公立病院において、小規模単位で分散している診療科を集約・再編し、医師等の働きやすい（集まりやすい）環境を構築
- 対策：安定した医師確保に向けた病院の機能再編事業（21.1億円）
（南部における公立病院の機能再編）
- (1) 各病院の特長（強み）を伸ばすための施設・設備の整備事業
…がん医療提供体制を強化・基幹的救急医療体制を形成・亜急性期回復期医療体制を充実
 - (2) 診療機能の一体的提供体制整備事業
…外来や入院機能を当該公立病院間で相互応援しながら一体的に提供するため、共通電子カルテシステムなど必要な体制を整備
 - (3) 機能再編に関する検討事業
…円滑な機能再編に向け、現状分析や機能再編シミュレーションを実施
 - (4) 地域の医療機関との連携事業
…勤務医の負担軽減や在宅療養への円滑な移行を図るため、地域医療連携室の機能を強化し、地域の医療機関との相互連携を進める。
 - (5) 医師にとっての魅力ある病院づくり事業
…医師にとって魅力あるキャリアパスを提示するとともに、多様なライフスタイルに対応した勤務環境の改善により医師の養成と確保を実現

- ② 課題：ハイリスク分娩数の増加が顕著、市立泉佐野病院（地域周産期母子医療センター）のNICU稼働率がほぼ100%
⇒産科機能の集約化・重点化を行っている北部の公立病院の機能強化が必要（H21.10周産期センターの運営を開始）
- 目標：和泉市立病院との機能分担により、泉大津市立病院に開設された周産期センターの医師確保を充実
- 対策：周産期医療体制の拡充事業（1.2億円）
（北部における公立病院の連携強化）
- (1) 関係大学への寄附講座開設事業
…寄附講座を開設し大学から指導医の派遣を受け、病院の研修機能の向上を図ることにより、安定的な医師確保のための環境を整備

- ③ 課題：救急搬送患者の増加、救急告示病院の減少が相まって救急医療体制が疲弊
⇒新たな救急医療体制の整備と救急搬送をめぐる課題の対応が必要
- 目標：南部に救急医療拠点を確保
救急協力機関の裾野を広げ、軽症者の受入ルールを定める
搬送困難事例の受入当番制の確立
- 対策：救急医療体制の再構築事業（2億円）
（医療圏全域における救急医療体制の充実）
- (1) 基幹的救急医療体制を形成【①（1）事業再掲】
 - (2) 二次救急搬送体制の連携強化事業
…二次救急告示病院以外の病院を救急システムに組込搬送困難な特定の疾患の受入当番制を確立

- ④ 課題：医療提供体制の安定化を図るために不可欠な医師の確保について、府全域でも様々な課題が発生
⇒二次医療圏や診療科による医師の偏在状況の是正・医師不足の解消に向けた女性医師の離職防止と復職支援など、効果的・効率的な取り組みが急務
- 目標：府全域で医師確保事業を実施することで、泉州医療圏での医療再生の取り組みを側面的に支援
- 対策：医師確保事業（0.7億円）
- (1) 奨学金制度を活用した医師確保対策事業…地域医療等に従事する明確な意思を持った学生に対する奨学金制度を創設し、不足している医療圏等へ誘導
 - (2) 就業環境改善による女性医師確保対策事業…短時間正規雇用制度を導入する医療機関に対して財政支援を実施

2 地域医療再生計画終了時の姿

南部：「点」から「面」で支える地域医療ネットワークへ転換し、安心の医療提供体制を構築
北部：周産期センターの「機能の強化」と「運営の安定化」により、安心の周産期医療体制を実現
医療圏全域：基幹的救急医療体制の確保と救急搬送受入の負担を分散し、安心の救急医療を実現
府全域：二次医療圏別や診療科別における病院勤務医の偏在を改善

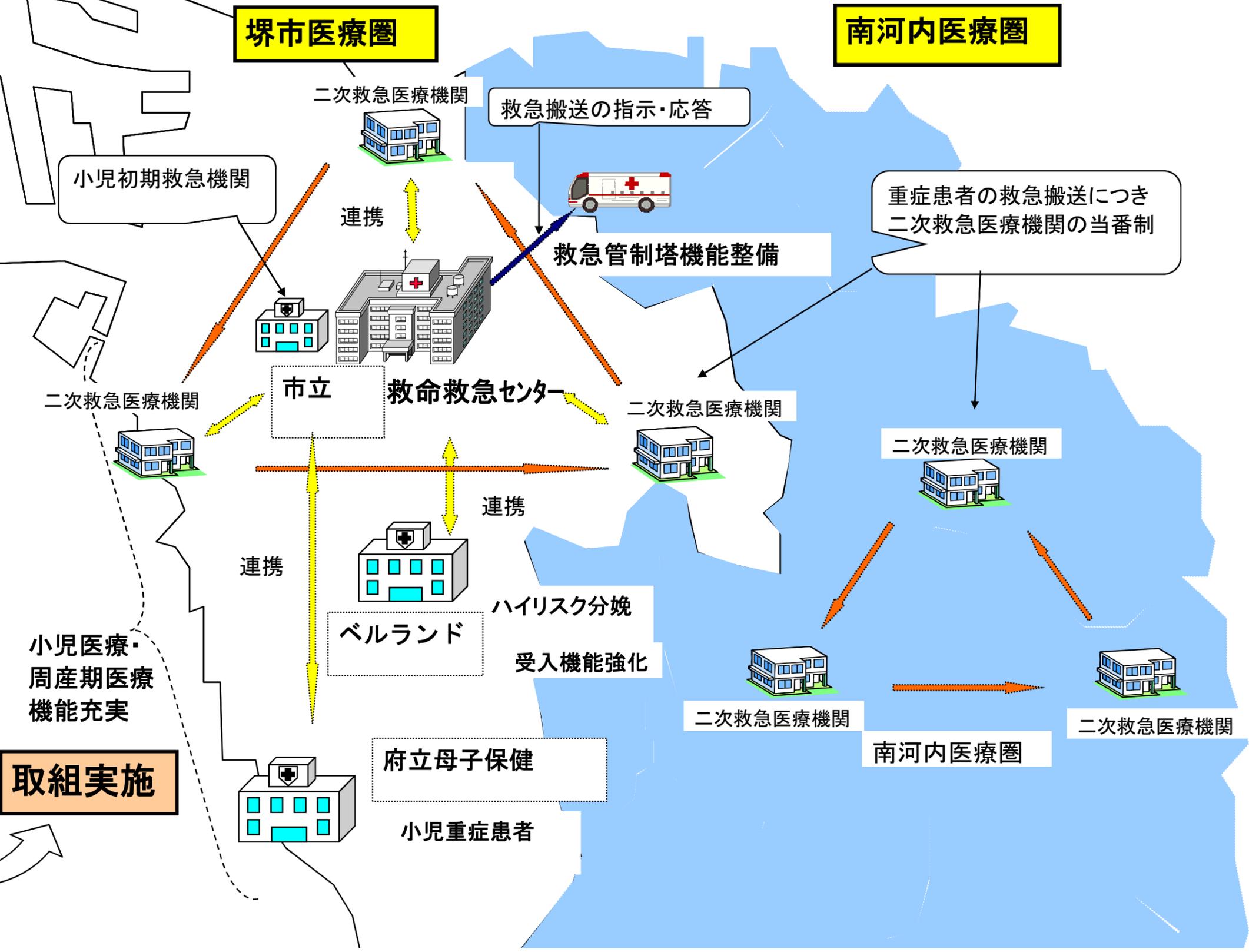
それぞれのテーマに沿った取り組みを
「重層的」「複合的」に推進

医療機能の再編・連携の推進により安定した医師確保を図り、
もって地域医療水準の向上と持続可能な医療体制を構築

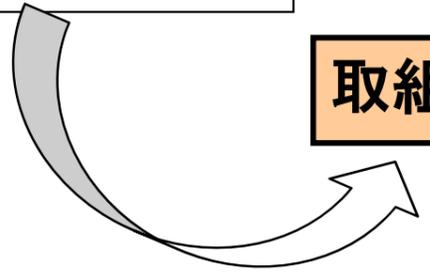
大阪府地域医療再生計画「堺市・南河内医療圏」

現状・課題

- 【堺市医療圏】**
- ・圏域に救命救急センターがなく、救命救急患者は二次救急医療機関や他圏域の救命センターへ搬送
 - ・重症患者等につき救急搬送受入に時間を要するなど、救急搬送のコーディネート機能整備と救急受入れ体制整備が必要
 - ・小児初期急病センターが後送病院と離れており、当直医師への負担となり、医師確保の弊害・住民への医療提供体制への課題
 - ・周産期医療機能、及び小児医療機能の充実が必要
- 【南河内医療圏】**



取組実施



1 課題を解決する方策

【堺市医療圏】

① 課題：圏域に救命救急センターがなく、救命救急患者は他圏域の救命救急センター等へ搬送されている

目標：圏域に新たに救命救急センターを整備する。

対策：「救命救急センター整備事業(10.3億円)」
堺市立病院に救命救急センター機能を整備し、救命救急患者の受入れに対応する。

② 課題：医療圏において、症例によって搬送に多くの時間を要するなど、二次救急医療機能に脆弱性が見られる。

目標：(1)圏域の救急搬送コーディネート機能の強化を図る。
(2)吐下血等の重症患者について、受入れ体制の強化を図る。

対策：(1)「救急管制塔機能等整備事業(0.5億)」
市立堺病院に、救急管制塔機能を整備するとともに、搬送先病院で対応困難な場合に市立堺病院で受入れ対応できる体制を整備する
(2)「二次救急医療連携強化事業(2.5億円)」
重症患者につき、救急医療機関の当番制による受入れ体制を整備する

【南河内医療圏】

① 課題：圏域の二次救急医療において、吐下血等の重症患者についての受入れ体制の強化が課題

目標：吐下血等の重症患者について、受入れ体制の強化を図る。

対策：「二次救急医療連携強化事業(2.0億円)」重症患者につき、救急医療機関の当番制による受入れ体制を整備する

2 地域医療再生計画終了時の姿

【堺市医療圏】○救命救急センター機能と救急管制塔機能をもった基幹病院を整備 ⇒ ・3次、2次、初期にわたる系統だった救急医療体制を構築
・圏域内で救急患者の受入が可能な体制を目指す

○小児医療、周産期医療の充実

【南河内医療圏】○重症患者の救急搬送受入れ機能の強化により二次救急医療体制の充実を目指す。

③ 課題：小児医療について、既存の小児初期救急医療機関の後送体勢や医師確保体制に不安を抱えている。
また、小児重症患者の受入れを担う医療機関において手術待ち患者が生じるなど、小児重症患者の受け入れ体制が十分でない

目標：(1)圏域内の小児初期救急医療体制の充実を図る。
(2)小児重症患者の受け入れ体制の充実を図る。

対策：(1)「小児急病センター整備事業(2.2億円)」
小児急病センターを堺市立病院と一体的に整備し、二次救急医療機関の協力のもと、24時間対応可能な体制整備を図る。
(2)「小児重症患者への対応強化事業(4.3億円)」
府立母子保健総合医療センターにPICU、手術室等の設備整備を行ない、医療機能強化を図る。

④ 課題：圏域において、NICUおよびMFICUの整備が不十分であるなど、周産期医療体制の強化が課題

目標：周産期医療を担う中核的医療機関にNICU、MFICU等の整備を行い、医療機能強化を図る

対策：「周産期医療機能強化事業(3.2億円)」
堺市立病院、及びベルランド総合病院にNICU、MFICU等の整備を行う。